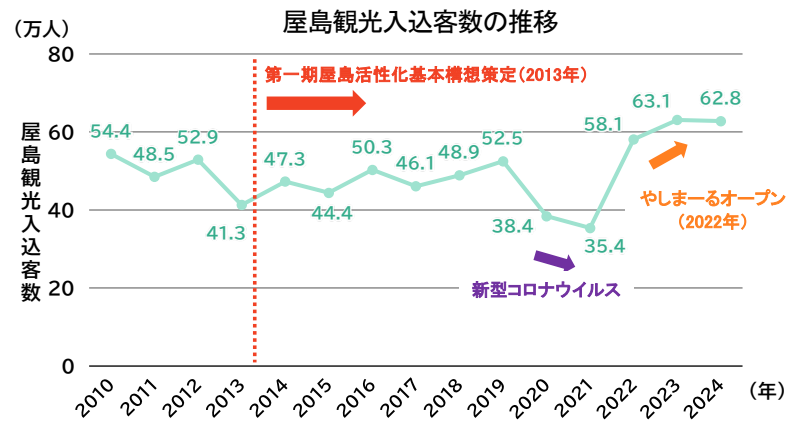


(2) 受入環境の改善

<現状及び問題点>

近年、本市を訪れる観光客数は増加しており、今後屋島においても訪日観光客を含めた来訪者の増加が期待されます。しかし、現時点では、多様な来訪者への受入環境は十分に整っておらず、受入体制の強化や将来的なオーバーツーリズムへの備えが不可欠です。

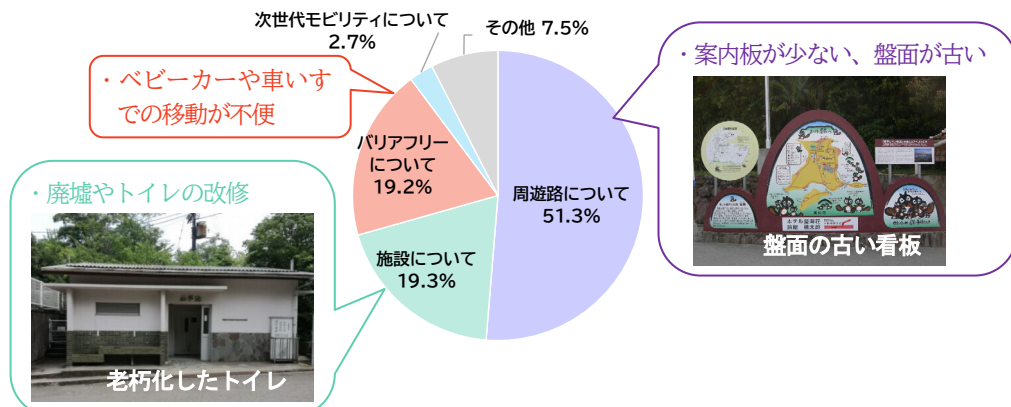


出典：香川県観光客動態調査報告

第1期構想の取組等において、受入環境は一定改善されましたが、便益施設や案内板の老朽化、夜間照明の不足等、引き続き観光地における基本的なインフラや景観管理等の受入環境の整備を進める必要があります。

また、来訪者の増加による混雑への対応や、多様化する来訪者に対応するための多言語化、歩行空間・便益施設のバリアフリー化といった受入環境の整備が十分ではなく、受入環境の質を高めるためのソフト面の充実が必要です。

山上地区の周遊における課題 (春夏秋冬調査の平均)



出典：屋島における山上・山麓間の交通手段等の検討に係る基礎的調査及び資料整理業務委託報告書 (春夏秋冬のアンケート結果のまとめ) を基に作成

課題

来訪者の安全性や快適性を確保するための基本的なインフラ整備を継続的に進めるとともに、来訪者の多様化に対応した多言語化やバリアフリー化等、受入環境の質を高める取組を総合的に推進していく必要があります。

また、地域との連携を図りながら、誰もが安心して滞在できる環境を整備することで、持続可能な観光地としての魅力向上を目指すことが求められています。

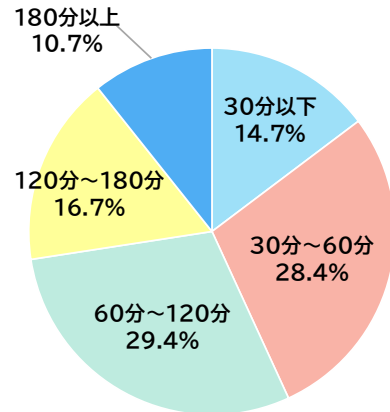
(3) 魅力磨き上げ・発信

<現状及び問題点>

屋島は、自然・歴史・文化等様々な魅力を有しているものの、こうした地域資源の中には未活用のもも多く、十分に掘り起こしや磨き上げが進んでいない状況にあります。加えて、屋島の持つ多様な魅力に対して、現在、提供可能な観光コンテンツや訪問先は限定的であり、観光客が訪れる時間帯の集中や滞在時間の短縮の要因の一つとなっています。

また、ターゲットに応じた情報発信が十分とは言えず、屋島の魅力や価値を市民や国内外の来訪者に効果的に届けきれておらず、観光地としての認知度や集客力の向上につながりにくい状況となっています。

屋島山上の滞在時間（繁忙期の平均）
※令和4（2022）年8月14日、10月16日、
令和5（2023）年1月1日、5月5日



出典：屋島における山上・山麓間の交通手段等の検討に係る基礎的調査及び資料整理業務委託報告書（技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」）を基に作成

※au スマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

課題

屋島の多様な価値を正しく伝え、選ばれる観光地を目指すべく、未活用の資源を活かすことで、観光体験の質を向上させるとともに、ターゲットに応じた効果的な情報発信を行う等、市民や国内外へ屋島の魅力を広く発信、集客するために、ソフト施策の深化・充実が求められます。

(4) 廃屋への対応

<現状及び問題点>

屋島山上には、老朽化した建物や利用されていない施設が点在しており、景観の悪化や安全面、防犯面での悪影響を及ぼしています。

特に、眺望スポットである談古嶺へ向かう散策ルート沿い等、比較的来訪者の往来が多い南嶺東側エリアにも廃屋が残存しており、来訪者の目に触れやすい場所で放置されている状況となっています。

廃屋・空き地



屋島登山ケーブル（屋島山上駅）跡地



課題

廃屋が放置された状況が続くと、来訪者の満足度の低下や屋島全体の魅力の損失につながる恐れがあります。そのため、景観や安全性に悪影響を及ぼしている廃屋について、倒壊リスクや防犯上の問題を踏まえつつ、関係者との合意形成を進めながら、段階的な撤去や適切な管理手法の検討が求められます。

また、周辺環境との調和を図りつつ、地域や民間事業者等と連携しながら廃屋（跡地）の利活用の可能性を検討していくことが重要です。

(5) 北嶺の利活用

<現状及び問題点>

北嶺は豊かな自然環境や眺望、南嶺との繋がりを示す文化財等の優れた魅力を有しているものの、これらを活かしたコンテンツの整備や情報発信が十分に行われておらず、北嶺の魅力や価値が広く認識されていない状況にあります。

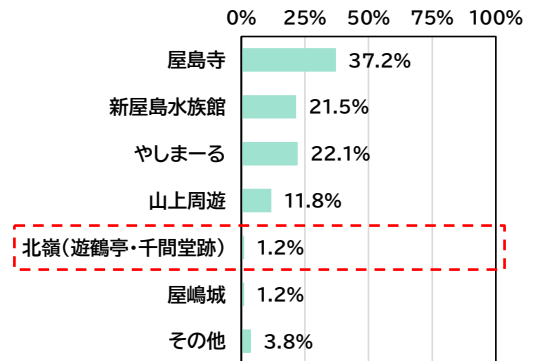
また山上駐車場や主要な観光スポットが集積する南嶺からのアクセスが不便であることから、観光客の来訪機会は限定的です。

そのため、北嶺は訪問先として選ばれにくい状況が続いており、屋島における観光は、南嶺を中心とした限られた範囲での短時間の滞在に留まる要因の一つとなっています。これにより、来訪者に対して屋島の持つ多様な魅力や価値を最大限に提供できておらず、屋島全体としての魅力発揮や滞在価値の向上につながりにくくなっています。

遊鶴亭から見た320度の大パノラマ



屋島地域の主な利用施設
(春夏秋冬調査の平均)



出典：屋島における山上・山麓間の交通手段等の検討に係る基礎的調査及び資料整理業務委託報告書（春夏秋冬のアンケート結果のまとめ）を基に作成

北嶺と南嶺の位置関係



所要時間：約30分
(距離：約2km)

課題

自然環境や文化財等、北嶺ならではの地域資源を適切に保全しつつ、その特性を活かした魅力あるコンテンツの創出や提供を計画的に進めていく必要があります。

また、南嶺からのアクセス性の向上や認知度向上を図り、北嶺が屋島全体の回遊性と滞在価値向上に貢献できるエリアとして機能するよう取り組む必要があります。

3 課題解決に向けた取組の方向性

屋島の活性化に向けて、5つの主要課題の解決のため、それぞれの課題に対応した取組の方向性のもと、各種施策・事業等を推進します。

(1) 山上へのアクセス改善

課題解決の方向性

● 駐車場の混雑対策

山上駐車場の混雑緩和に向けて、情報発信や運用面での対策等を講じて、来訪者の行動変容を促し、公共交通と連動した快適な移動環境の実現を図ります。

● 公共交通の利便性の向上

定期シャトルバスの利用促進に向けて、鉄道との接続性やバス停の利便性等、公共交通ネットワークの充実を図り、来訪者の公共交通への利用転換を促します。

● 二次交通の強化

来訪者の交通手段の多様化、分散等による交通渋滞の緩和を図るため、屋島山麓と山上間の二次交通について検討します。

(2) 受入環境の改善

課題解決の方向性

● ハード面の改善

高齢者や障がいのある方が安心して利用できるよう、施設のバリアフリー化の推進等、インフラ整備・施設整備を図ります。

● ソフト面の改善

観光案内やパンフレットの多言語対応、観光ガイドの育成・ホスピタリティの強化、観光マナー啓発等を通じ、誰もが快適に楽しめる受入環境を整えます。また、地域住民と連携・協働し、観光需要をより良い地域づくりに活かすための体制づくりに取り組みます。

(3) 魅力磨き上げ・発信

課題解決の方向性

● 情報発信・PRの強化

ターゲットに応じたPR戦略を強化することで、市民には愛着を、屋島を訪れたことがない人には認知度向上と来訪意欲を高める情報発信を推進します。

● 屋島の魅力の磨き上げ

屋嶋城、談古嶺から見る歴史的な風景等、屋島の潜在的な価値を掘り起こし、魅力にさらに磨きをかけることで、ブランド価値の向上と市民の誇りにつながる地域づくりを推進します。

● 多様な体験を通じた滞在時間・滞在価値の向上

屋島の地形など貴重な自然環境や、夕景・夜景等、観光資源を活用することで、観光地の質を高め、滞在時間・滞在価値の向上を図ります。

(4) 廃屋への対応

課題解決の方向性

● 廃屋及び跡地の活用可能性検討

市民や民間事業者等と連携し、保全する廃屋や廃屋跡地の利活用を検討します。

● 廃屋の撤去

良好な景観や安全で快適な観光地づくりのため、関係者等との合意形成を図り、廃屋の撤去に向けた取組を推進します。

(5) 北嶺の利活用

課題解決の方向性

● 北嶺の特性を活かした魅力あるコンテンツの提供

北嶺の優れた自然環境の保全と適切な活用を図るとともに、千間堂跡や遊鶴亭、長崎ノ鼻など、歴史文化を感じられる地域資源を活かした魅力あるコンテンツの創出・提供を図ります。

● 北嶺のアクセス環境の向上

北嶺の特性を踏まえ、誰もが快適に利用できる歩行環境の維持・充実を図るとともに、南嶺からの円滑な誘導や歩道の魅力づくりを進めることで、北嶺のアクセス環境の向上を推進します。

第4章 屋島活性化に向けた具体的取組

1 屋島活性化に向けた具体的取組について

屋島活性化に向けた具体的取組は、『世界に誇れる高松市のシンボルとなる屋島の活性化』の実現のために取り組むべき施策・事業のメニューを示すものであり、屋島活性化に向けた取組実践の基点となるものです。

施策・事業メニュー（案）に示す具体的な取組内容については、5つの主要課題に特化した部会を適宜設置し、取り組むべき内容を定め、実行します。

(1) 山上へのアクセス改善

●駐車場の混雑対策

山上駐車場の混雑緩和に向けて、情報発信や運用面での対策等を講じて、来訪者の行動変容を促し、公共交通と連動した快適な移動環境の実現を図ります。

<施策・事業メニュー（案）>

✓駐車場の混雑対策と連動したパークアンドバスライドの導入

山麓部に臨時または常設のパークアンドライド専用駐車場を整備し、駐車場から公共交通やシャトルバス等へ乗り換えて山上へアクセスする仕組みを導入します。

#他市の取組事例

①石見銀山方式パークアンドライド(島根県 太田市)

- ・世界遺産 石見銀山の環境保全と来訪者の安全確保のため、観光客のマイカーの流入を制限することで、来訪者のマイカーを一定エリアの外に誘導し、専用駐車場に車を置いてからバスで観光エリアへ向かう仕組みを導入。

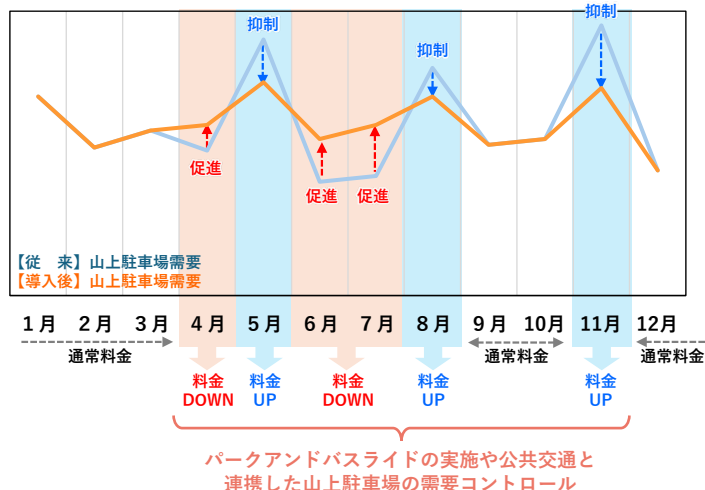


出典：株式会社石見銀山生活観光研究所

✓ダイナミックプライシングの導入に向けた検討

混雑状況や需要の変動に応じて駐車料金等を柔軟に変更するダイナミックプライシングを導入し、ピーク時の駐車場の緩和と利用の平準化を図ります。

駐車場のダイナミックプライシングイメージ



✓混雑状況のリアルタイム発信

山上駐車場の混雑緩和に向けて、リアルタイムの混雑状況及び混雑予測を発信するとともに、混雑時には市内の代替観光地を提案することで、利用者の移動分散を促します。

#他市の取組事例

駐車場の混雑状況及び予測の配信(埼玉県 秩父市)

- ・三峯神社は急峻な山間地に位置しているため、来訪者は市営駐車場からの徒歩のみで、駐車場へのアクセスは自動車及び路線バスに限られており、道路や駐車場の混雑が課題となっている。
- ・来訪者の行動変容を促すため、混雑予測機能やデジタルサイネージの整備により、混雑緩和を目指す。

デジタルサイネージによる混雑状況の発信



出典：秩父市

✓駐車場の確保策の検討

来訪者増加や将来的な需要を見据え、屋島地域で駐車場の確保策を検討します。

●公共交通の利便性の向上

定期シャトルバスの利用促進に向けて、鉄道との接続性やバス停の利便性等、公共交通ネットワークの充実を図り、来訪者の公共交通への利用転換を促します。

<施策・事業メニュー（案）>

✓屋島山上シャトルバスの増便及び鉄道との接続強化による利便性向上

観光需要の増加やピーク時の混雑に対応するため、屋島山上シャトルバスの運行本数の最適化を図ります。

また、鉄道の到着時刻とシャトルバスの発車時刻を連動させることで、スムーズな乗り継ぎを可能にし、屋島山上へのアクセス性を高めます。

ことでん車両



屋島山上シャトルバス



出典：ことでんバス株式会社ホームページ

✓バスルートの最適化

屋島を訪れる観光客の移動需要や観光行動を踏まえ、主要観光地や高松駅へのアクセスが向上するよう、ルートの短縮・再配置・新規設定等を検討し、より効率的で利用しやすい運行体系を構築します。

●二次交通の強化

来訪者の交通手段の多様化、分散等による交通渋滞の緩和を図るため、屋島山麓と山上間の二次交通について検討します。

<施策・事業メニュー（案）>

✓屋島山麓と屋島山上を結ぶ新たな交通手段の導入に向けた検討

新たな交通手段の導入については、文化財保護法上、地形の変更や建築物等の新築は原則として認められていません。

また、自然公園法においても、屋島は瀬戸内海国立公園の第2種特別地域に指定されていることから、許可基準、審査基準に適合しなければ、新たな開発等は認められません。

一方で、屋島山上へのアクセスに課題があることから、屋島山麓と山上間のアクセス性の向上を図り、移動そのものが観光体験の一つとなるニーズもあります。

これらの点を踏まえ、新たな交通手段の導入の可能性について、関係省庁等と協議、検討を進めます。

#他市の取組事例

二次交通の導入事例

モノレール



スロープカー



ロープウェイ



リフト



出典：

モノレール（兵庫県立「国見の森公園」 森林学習軌道（ミニモノレール））

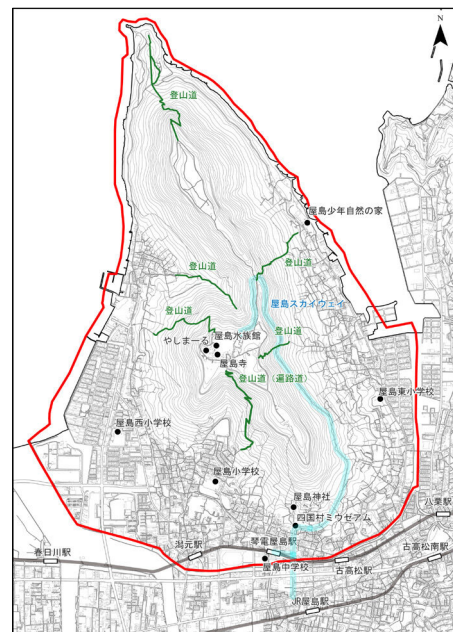
スロープカー（長崎県 稲佐山公園 スロープカー）

ロープウェイ（四国ケーブル株式会社 箸蔵山ロープウェイ）

リフト（鳥取大砂丘 砂丘センター 観光リフト）

✓遍路道・登山道等の利用促進

山麓から山上への交通手段の分散化を図るため、徒歩によるアクセスを有効な選択肢の一つとして位置付け、北嶺や南嶺の遍路道・登山道の利用促進を進めるとともに、歩くことを通じた市民等の健康増進にもつなげます。



交通アクセス※再掲
(国土数値情報)

(2) 受入環境の改善

●ハード面の改善

高齢者や障がいのある方が安心して利用できるよう、施設のバリアフリー化の推進等、インフラ整備・施設整備を図ります。

<施策・事業メニュー（案）>

✓バリアフリー化による安全性の向上

高齢者や障がいのある方を含むすべての来訪者が安心して移動できるよう、施設等のバリアフリー化を進め、安全性の向上とストレスのない移動環境の実現を図ります。

屋島寺によるバリアフリー化事例



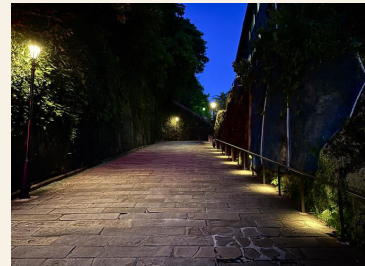
✓夜間でも安心して歩ける街灯や足元灯による適切な照度確保

夜間でも安全に歩けるよう、主要な歩行ルートや観光動線に適切な照度確保を行い、暗所や見通しの悪い場所の改善を図るとともに、高齢者や子ども連れも夜間に安心して過ごせる環境を整えることで、滞在時間の延伸や観光地の質の向上を促します。

#他市の取組事例

長崎市まちなか夜間景観整備(長崎県 長崎市)

- ・「夜も歩いて楽しいまち」を実現するため、地域のランドマークとなる歴史的建造物や観光施設等のライトアップや回遊路の街路灯等を整備。



出典：長崎県 長崎市

✓便益施設の整備（ベンチや休憩所、日よけ、トイレ等）

来訪者が快適に滞在できるよう、休憩用ベンチや日よけ施設、トイレ機能、土産物等の販売機能を備えるとともに、バス利用者の待合環境の向上にもつながる便益施設の整備を検討します。

#他市の取組事例

熊本城桜の馬場 桜の小路(熊本県 熊本市)

- ・熊本城が有する歴史的な価値や集客ポテンシャルを活かしつつ、市営駐車場敷地の活用によって、観光地の滞留機能を充実し、アメニティの場としての機能強化。
- ・観光地の活性化について、地域の事業者が自発的に協働して力を結集し、地域資源の魅力を高めて経済再生に貢献。

熊本城 桜の小路



出典：熊本城桜の馬場リテール株式会社
一般社団法人 都市みらい推進機構

●ソフト面の改善

観光案内やパンフレットの多言語対応、観光ガイドの育成・ホスピタリティの強化、観光マナー啓発等を通じ、誰もが快適に楽しめる受入環境を整えます。

また、地域住民と連携・協働し、観光需要をより良い地域づくりに活かすための体制づくりに取り組みます。

<施策・事業メニュー（案）>

✓多言語化対応の推進

増加する訪日観光客に対応するため、パンフレットや案内看板、デジタルサイネージ、公式ウェブサイト、観光ガイド等の多言語対応を推進します。

✓観光マナーの啓発、注意喚起

屋島の貴重な自然環境、眺望、歴史文化を損なう行為を未然に防ぐために、デジタルサイネージやポスター掲示等多様な媒体を活用して、観光マナーに関する情報を分かりやすく発信します。

#他市の取組事例

マナー啓発チラシ（京都府 京都市）

- ・文化や習慣の違い等から生じる外国人観光客へのマナー啓発のため、異文化理解の促進やエコバックの持参や文化遺産の保護等、持続可能な観光に対する意識の高まりも踏まえた啓発ツールとして作成。



出典：京都市、公益財団法人 京都市観光協会

✓観光ガイドの育成とホスピタリティの強化

来訪者への質の高い案内とおもてなしを提供するため、ガイド人材の育成とホスピタリティ向上に向けて取り組みます。

屋島山上観光ガイド



出典：エクスペリエンス高松

(3) 魅力磨き上げ・発信

●情報発信・PRの強化

ターゲットに応じたPR戦略の強化及び県や市、関係地域と連携を図り、市民には愛着を、屋島を訪れたことがない人には認知度向上と来訪意欲を高める情報発信を推進します。

<施策・事業メニュー（案）>

✓ターゲットに応じたプロモーション戦略の強化

来訪者分析に基づき設定した、ターゲット層の特性に応じて、SNS・Web・紙媒体等を組み合わせた効果的なプロモーションを実施します。そのため、屋島の自然環境、眺望、歴史文化等と体験の価値を視覚的に訴求するコンテンツを制作し、発信力を強化することで、屋島としてのブランドの認知向上と来訪意欲の喚起を図ります。

✓広域誘客を目的とした情報発信の強化

広域（市外・県外）在住者を主なターゲットとして、「讃岐ジオパーク構想」との連携や関係地域との連携を図りながら、多面的かつ高い訴求力を備えた情報発信を展開することで、屋島の魅力を効果的に広域へ届け、新たな来訪意欲の喚起と観光誘客の促進を図ります。

✓市民等の参画による魅力発信とシビックプライドの醸成

市内在住の市民、学生、事業者等が主体的に参加できるSNS発信イベント等を推進します。フォトコンテストやハッシュタグキャンペーン、地元のおすすめスポット紹介等、市民が「魅力の伝え手」として屋島に関わる機会を創出するとともに、地元への愛着の醸成を図ります。

●屋島の魅力の磨き上げ

屋嶋城、談古嶺から見る歴史的な風景等、屋島の潜在的な価値を掘り起こし、魅力にさらに磨きをかけることで、ブランド価値の向上と市民の誇りにつながる地域づくりを推進します。

<施策・事業メニュー（案）>

✓屋島の歴史文化的価値の見える化

屋島が有する歴史文化等の特性をより深く理解してもらうため、現地空間を活かした展示やデジタル技術を活用した展示等、多様な手法を用いて屋島の価値の“見える化”を推進します。屋島の歴史的背景を、来訪者が現地で直感的かつ臨場感をもって学べる環境を整備し、新たな観光価値の創出を図ります。

✓やしまーの更なる利活用

屋島観光の拠点として、既存施設の機能や空間特性を活かしながら、屋島の魅力を多角的に発信する展示や表現手法の高度化を進め、来訪者がより深く、分かりやすく屋島の魅力を体感できる環境づくりを推進します。

✓眺望スポットの整備による景観、眺望の質向上

主要な眺望スポットにおいて、自然環境に配慮しつつ視界を妨げる植生の適切な管理を行います。また、快適な眺望の鑑賞や写真撮影に適した環境整備等を進め、屋島の多彩な眺望をより一層楽しめる眺望スペースを創出し、景観価値と観光体験の質の向上を図ります。

他市の取組事例

里山林整備事業（景観保全型）（広島県 三原市）

- ・観光名所である筆影山・竜王山は、一部雑木等が茂り山頂からの眺望が悪化したため、地域住民からの整備要望を受けていた。
- ・当該地は保安林指定されていたため、所定の手続き等を経て雑木伐採を行うことで眺望が改善し、観光地としての価値向上が図られた。

整備後の眺望



出典：広島県

●多様な体験を通じた滞在時間・滞在価値の向上

屋島の地形等の貴重な自然環境や夕景・夜景等、観光資源を活用することで、観光地の質を高め、滞在時間・滞在価値の向上を図ります。

< 施策・事業メニュー（案） >

✓屋島固有の魅力を活かした現地体験型コンテンツの創出

屋島が有する地形や生態系、歴史背景等の特性を活かし、現地ならではの体験型コンテンツを創出します。専門家のガイドによる自然や歴史に関わるプログラム等、来訪者の興味を喚起するテーマの提供による観光価値の一層の向上を図ります。

#屋島での取組事例
ジオで屋島を知ろう!!



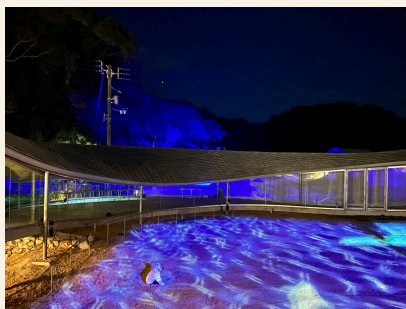
出典：all YASHIMA

✓夕景・夜景を活かしたコンテンツの創出

屋島山上から望む夕景・夜景といった魅力的な景観資源を活用し、ライトアップやプロジェクションマッピングイベント、星空観察会、夜の歴史ガイドツアー等、時間帯の魅力を引き出すコンテンツを創出します。

#屋島での取組事例

屋島ライトアップ・
プロジェクションマッピング



天空ミュージック



✓関係施設等と連携した学習・体験型プログラムの拡充

屋島地域及び周辺施設等との連携を強化し、学習及び体験性に優れたプログラムの開発・拡充を推進します。周辺を含む多様な地域資源を活かした連携型の体験の提供を通じて、来訪者の満足度向上と周遊促進を図ります。

(4) 廃屋への対応

●廃屋及び跡地の活用可能性検討

市民や民間事業者等と連携し、保全する廃屋や廃屋跡地の利活用を検討します。

<施策・事業メニュー（案）>

✓廃屋の利活用の検討

保全する廃屋について、周辺環境との調和を図りながら、その利活用の可能性を検討します。

✓廃屋跡地の利活用の検討

地域住民や事業者、関係団体等の多様な主体と連携し、エリア全体の将来像を見据えた廃屋の跡地の利活用に向けた可能性を検討します。

●廃屋の撤去

良好な景観や安全で快適な観光地づくりのため、関係者等との合意形成を図り、廃屋の撤去に向けた取組を推進します。

<施策・事業メニュー（案）>

✓関係者等との合意形成

関係者等との対話を重ねて課題を共有し、廃屋の撤去に向けた合意形成を図ります。

✓体制の構築

地域の実情を踏まえた安全で快適な観光地づくりに向けた体制を構築し、撤去に係る国等の補助制度等の活用の検討を行いながら、撤去に向けた取組の推進を図ります。

(5) 北嶺の利活用

●北嶺の特性を活かした魅力あるコンテンツの創出

北嶺の優れた自然環境の保全と適切な活用を図るとともに、千間堂跡や遊鶴亭、長崎ノ鼻等、歴史文化を感じられる地域資源を活かした魅力あるコンテンツの創出・提供を図ります。

<施策・事業メニュー（案）>

✓北嶺の自然や歴史文化を学ぶウォークイベント等の開発

北嶺の豊かな自然環境や千間堂跡や遊鶴亭、長崎ノ鼻等、北嶺に所在する多様な文化財や歴史にまつわる逸話等を現地で体感しながら学ぶことができるウォークイベント等を開催し、北嶺及び屋島全体に対する参加者の関心と理解を高め、屋島の価値の再認識と継承につなげます。

●北嶺のアクセス環境の向上

北嶺の特性を踏まえ、誰もが快適に利用できる歩行環境の維持・充実を図るとともに、南嶺からの円滑な誘導や歩道の魅力づくりを進めることで、北嶺のアクセス環境の向上を推進します。

<施策・事業メニュー（案）>

✓北嶺の周遊環境の維持・充実

北嶺は落ち着いた環境の中で、ゆっくりと歩きながら散策や自然観察を楽しむことのできる場所です。この特性を踏まえ、引き続き利用者が安全・安心に利用できる周遊環境の維持・充実を図ります。また、徒歩での移動が困難な方であっても北嶺の魅力を十分に体感しながら周遊できる手法について検討を行います。

✓南嶺と北嶺の回遊性の向上

北嶺の魅力を発信するソフト事業を展開することで、北嶺への来訪の動機づけを図るとともに、来訪者を南嶺から北嶺へ円滑に誘導するため、歩道の魅力づくりや南嶺における北嶺への案内サインの設置等、分かりやすく回遊できる誘導の工夫を行い、南嶺と北嶺の回遊性の向上を図ります。

第5章 今後の推進体制

1 推進体制

世界に誇れる高松市のシンボルとなる屋島の活性化に向けて、行政（国・香川県・高松市）及び学識経験者、専門家、民間事業者、地域等の屋島に係る多様な主体間の連携のもと、様々な課題に対して、分野横断的かつ有機的な取組を推進していく必要があります。

これまで魅力ある屋島の再生に向けた各種取組を推進してきた「魅力ある屋島再生協議会」を第2期基本構想の策定を機に「魅力ある屋島活性化協議会（以下「協議会」という。）」に改めます。

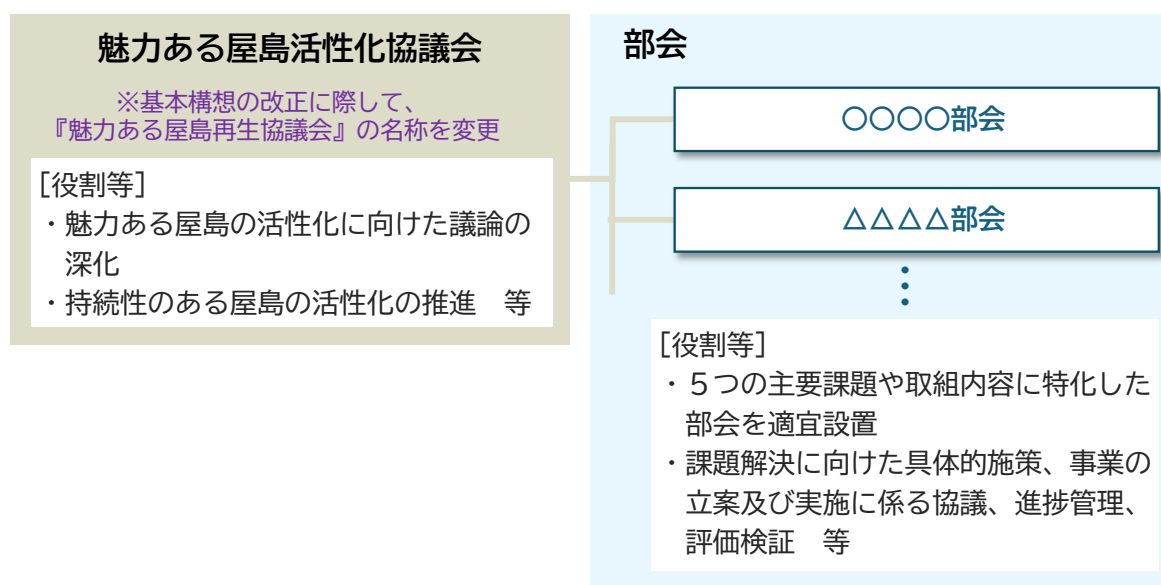
協議会では、屋島活性化基本構想及び屋島活性化に向けた具体的取組の実効性を高めるべく、屋島の活性化に向けた議論の深化及び持続性のある活性化を推進するとともに、必要に応じて5つの主要課題に特化した部会を設置し、専門的知見と実行力を有する官民連携の構成メンバーの参画のもと、取組の着実かつ効果的な実現を図ります。

<魅力ある屋島活性化協議会の役割>

- ・第2期基本構想の見直し後は、『魅力ある屋島活性化協議会』に名称を変更し、基本構想の評価検証等を実施。
- ・屋島の活性化に向け、その特性及び価値の保存並びに地域資源としての有効活用や屋島の持続性のある活性化を推進。 等

<部会の役割>

- ・必要に応じて、5つの主要課題に特化した部会を適宜設置し、実行力のある構成メンバーのもと、プランの着実かつ効果的な実現を図る。
- ・課題解決に向けた具体的施策、事業の立案及び実施に係る協議、進捗管理、評価検証等を実施。 等



屋島活性化に向けた推進体制（協議会及び部会の役割と位置付け）

2 屋島活性化に向けた多様な主体との連携

屋島の持続的な活性化に向けて、屋島単体での取組に留まらず、周辺地域との連携や広域的な視点に立った施策の展開が必要となります。

屋島は昭和9（1934）年に日本で最初の瀬戸内海国立公園に指定されました。令和16（2034）年に瀬戸内海国立公園指定100周年という節目を迎えるに当たり、屋島を瀬戸内海を代表する拠点の一つとして、国立公園全体の魅力向上や一体的な情報発信、周辺地域とのネットワークを強化することで、瀬戸内地域全体とのつながりや広域的な人の流れの創出を図ります。

関係主体との連携・協働のもと、課題解決に向けた具体的取組を着実に実行するとともに、瀬戸内海国立公園指定100周年と連動した広域連携の展開及び世界への価値や魅力の発信を通じて、世界に誇れる高松市のシンボルとなる屋島の活性化を推進します。



屋島活性化に向けたロードマップ